

スリナム共和国概況

Republic of Suriname



2024年2月

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

目 次

I. 概観.....	3
1. 一般情報.....	3
a. 面積・地勢.....	4
b. 気候・風土.....	4
c. 人種・民族.....	4
d. 言語.....	4
e. 国旗・国章.....	5
f. 主要都市.....	5
g. 社会.....	5
h. 宗教.....	6
i. 教育.....	6
j. 文化・風俗・習慣・芸術.....	6
k. スポーツ.....	6
2. 歴史.....	7
a. 独立前.....	7
b. 独立とそれ以降.....	7
II. 政治と外交.....	9
1. 政体.....	9
2. 政治概況.....	10
3. 最近の政情.....	10
5. 政党.....	11
6. 行政.....	11
a. 国家行政.....	11
b. 地方行政.....	12
7. 司法.....	12
8. 外交.....	12
a. 概況.....	12
b. 国境問題.....	13
c. ブラジルとの関係.....	13
III. 経済.....	13
1. 概況.....	13
2. 近年の経済状況.....	14
3. 産業.....	15
4. 金融・財政.....	16
6. 経済統合.....	17
7. 対日貿易.....	17

IV. 日本との関係.....	18
1. 政治・外交.....	18
a. 往訪	19
b. 来訪	19
4. 文化・人的交流.....	20
5. 在留邦人	20
V. 旅行者のために	20
1. 時差.....	20
2. 通貨・両替.....	21
3. 国際電話	21
4. 2024年の祝祭日	21
5. 交通手段	21
a. タクシー	21
b. バス	22
6. 治安.....	22
VI. 主要電話番号	22
● 当館管轄国と日本の貿易関係	25

（注）この資料に掲載された情報は2024年2月の時点で調査したものであり、随時変更される可能性がありますのでご了承ください。旅行等に必要情報はあらかじめお調べの上お出かけ下さい。

I. 概観

1. 一般情報

	スリナム共和国	日本
面積	約 163,820k m ² ⁱ	377,974.79k m ² (2023 年) ⁱⁱ
位置	北緯 2~6 度 西経 54~58 度	東経 123~154 度 北緯 20~46 度
時差	日本との時差は - 12 時間	
気候	熱帯性 乾期：9~11 月、雨期：5~7 月	(東京) (2023 年) 8 月：29.2℃、1 月：5.7℃ ⁱⁱⁱ 年間降雨量：1396.5 mm ^{iv}
人口	人口 : 618,040 人 ^v (2022 年) 人口増加率：0.8% ^{vi} (2022 年) 人種構成：インド系 27.4% クレオール系 15.7% インドネシア（ジャワ）系 13.7% マルーン（ブッシュネグロ） 21.7% その他 21.6% ^{vii}	1 億 2443 万人 (2023 年 8 月) ^{viii}
主要言語	オランダ語（公用語・共通語）、英語、スラナントンゴ（共通語）、英語、その他、各民族の言語	
1 人当たり GDP / GNI	1 人当たり GDP（米ドル） 5,858 ^{ix} (2022 年) 1 人当たり GNI 4,880 ^x (2022 年)	
宗教	ヒンズー教 22.3% プロテスタント 23.6% カトリック 21.6% 他キリスト教 3.2% イスラム教 13.86% その他 15.4% ^{xi}	

ⁱ CIA、*The World Factbook* : <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/suriname/>

^s

ⁱⁱ 国土地理院 : <https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>

ⁱⁱⁱ 気象庁 : <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly>

^{iv} 気象庁 : <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/annually>

^v UN Data : <https://data.un.org/en/iso/sr.html>

^{vi} UN Data : <https://data.un.org/en/iso/sr.html>

^{vii} CIA、*The World Factbook* : <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/suriname/>

^{viii} 総務省統計局 : <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

^{ix} The World Bank : <https://databank.worldbank.org/reports.aspx?source=2&country=SUR>

^x The World Bank : <https://databank.worldbank.org/reports.aspx?source=2&country=SUR>

その他	首都：パラマリボ（Paramaribo） 国際空港：ペンゲル（J.A.Pengel）国際空港 最高峰：ジュリアナ・トップ（Juliana Top）山（1,230m）
-----	--

a. 面積・地勢

南米大陸北部、北緯2～6度、西経54～48度に位置し、面積は、約156,000平方キロメートルで日本の面積の半分よりやや狭い程度です。アマゾン河の北部にあり、国土の北側約390キロの海岸線が大西洋に面しています。

b. 気候・風土

熱帯性気候で温度変化は小さく、年間を通して、最高気温30.9度、最低気温24.2度、平均気温約27.53度^{xii}です。季節は雨期と乾期があり、年によって前後はするものの、雨期は5～7月で乾期は9～11月で月60ミリ程の降雨量、その他の月には150ミリ前後の降雨があり、年間降水量は約2,108.7ミリです。平均湿度は約80%と植物の繁茂に極めて適しています。また、カリブ海を襲うハリケーンベルトからも外れているため、季節的な暴風雨に見舞われる可能性は低いですが、暑い日の午後に夕立のような豪雨が降ることはあります。1年を通じて穏やかな常夏の国で、8、9月が最も暑くなります。

c. 人種・民族

先住民族はアメリンディアンです。植民地政策が始まった1650年頃から、農園開発のため、アフリカより奴隷が導入されるようになりました。奴隷廃止前後からアジアの民族が農園の契約労働者として渡来、定住するようになり、現在のスリナムの多様な民族構成を築いています。奴隷解放後、都市生活者になったアフリカ系も多く、これらのアフリカ系ないし混合人種は、クレオールと呼ばれています。アフリカ系奴隷の一部は、過酷な条件から逃れるため農園から逃亡し、内陸部に定住するようになり、これらの子孫はマルーン又はブッシュネグロと呼ばれます。その他の民族としては、オランダ等からのヨーロッパ人や、レバノン等中東からの商人が定住し、子孫の代になっています。なお、インド系住民については、独立前に英領インドであったことから、主にガイアナ（当時は英領ギアナ）を経由して渡来しました。ジャワ系住民は、独立前にオランダ領東インド（現在のインドネシア）の一部であり、宗主国がスリナムと同じオランダであったことが背景にあります。

その他にも、ガイアナ、ブラジル、中国等の外国国籍者が多数居住するといわれています。

d. 言語

オランダから独立した後もオランダ語が公用語として採用され、学校教育もオランダ語で行われていますが、日常的にはクレオール系を中心に、スラナントンゴ（スリナム語：アフリカの言語と英語が融合した、英語を簡略化したような言語で、タキタキとも呼ばれています）が使用されており、しばしばオランダ語と組み合わせられて使われています。従って、オランダ語とスラナントンゴが共通の

言語であり、英語がそれに続きます。各々の民族同士は、それぞれの民族の言語（ヒンディー語、ジャワ語、広東語等）を話しますが、オランダ語教育が行き渡り、各民族の言葉を使いこなせない世代が増えてきています。

e. 国旗・国章

【国旗】



スリナムの国旗（左図）の緑は、多くの資源を有するスリナムの豊かさと希望を、白は、正義と自由、赤は、祖国に尽くす熱意と行動、黄色は、犠牲の精神を象徴し、星は、国家の統一、統一に対する犠牲の精神と、輝く未来への志向の意味が込められています。

【国章】

右図のとおり、二人のアメリンディアン（スリナム先住民）が弓矢を片手に、中央にある楯を支えながら起立し、台座には、JUSTITIA（正義）、PIETA（敬虔）、FIDES（忠誠）と、ラテン語で記されています。楯に描かれた帆船は交易、椰子は農業、星を囲む菱形は鉱業を意味しています。



f. 主要都市

首都パラマリボは、政治、経済の中心地として300年の歴史を有し、旧植民地時代の名残であるオランダ風木造建築の住居やオフィス、教会等の古びた白壁が街の景観を特徴付けています。中心街は歴史地区という名称で、2002年6月に、ユネスコの世界文化遺産に指定されました。

第2の都市は、ガイアナ国境の町ニューニッケリーです。

国際空港は、パラマリボの南約40キロにある、ペンゲル国際空港です。ペンゲルは、独立以前の1963年から1969年まで首相であった人物で、パラマリボの大統領宮殿前広場には銅像が建ち、スリナムにとって重要な政治家として語り継がれています。

国際空港とは別に、パラマリボ市内には近隣国や国内空港を結ぶ小型機用空港があります。内陸部に通じる道路は未発達であり、小型機は首都圏と内陸部を結ぶ唯一の交通手段となっています。

g. 社会

スリナム社会は、複数の民族・人種グループから構成されますが、職業や居住地域についてはある程度のすみ分けがみられます。商業部門においてはインド系と中国系が、農業分野においてはインド系とインドネシア系が、他の民族グループより際だっていますが、全体として特定の民族や人種グループが特定の経済分野において支配的であるということはなく、植民地支配を経験した多民族国家としては政治面でも経済面でも比較的均衡の取れた、安定した社会が形成されているといえます。

1975年の独立に際し、住民は自主的な判断でオランダないしスリナム国籍を選択する権利が与えられ、当時の総人口の3分の1がオランダ国籍を選択してオランダへ移住しました。家族、親戚の間でそれぞれ異なる国籍を選択したケースも多々あり、独立後もオランダに居住する親戚、知人等との往来が盛んで、また、言葉が共通であるゆえ、留学や就職先として、オランダに移住する人もいます。

スリナムは、地理的に海岸部（総面積の約1割、総人口の9割弱が居住）と、内陸部（総面積の約9割、総人口の1割強が点在して居住）に大別されますが、熱帯林に覆われ、海岸部との交通の便が良くない内陸部では、マルーン系及び原住民であるアメリンディアン系住民がそれぞれの伝統的な生活習慣を守りながら小さな社会を形成しており、各部族の酋長の権威に対しては、中央政府も一定の範囲で尊重しています。

h. 宗教

ヒンズー教、キリスト教、イスラム教がスリナムにおける3大宗教です。3大民族グループについては、インド系の大半はヒンズー教（22.3%）、クレオール系の大部分はキリスト教（プロテスタント23.6%、カトリック21.6%）、インドネシア（ジャワ）系の大部分はイスラム教徒（13.8%）となっています。パラマリボ市内をはじめ、全国各地にヒンズー寺院、モスク、キリスト教会が多数あり、特に首都パラマリボにあるネーヴ・シャロム・シナゴグ（ユダヤ教礼拝所）とキゼルストラート・モスクが隣り合って建っているのは、世界でも類を見ない光景であり、宗教上の争いがないことの象徴として語られています。その他、内陸部の集落には生活習慣と結び付いた精霊信仰も存在します。

i. 教育

オランダに倣った教育制度で、4歳から始まる11年間の基本教育機関のうち7歳～12歳までが義務教育です。新学期は10月から始まります。高等教育機関として、アントンデコム大学、専門学校、人文高等教育機関などがあります。

j. 文化・風俗・習慣・芸術

2002年にユネスコ世界遺産に登録された首都中心部にはオランダ風の木造建築が立ち並び、300年にわたるオランダ植民地時代の名残を強く感じさせます。

お祝い事などの際には、市民は各民族の伝統衣装をまとって様々な音楽やダンスを楽しみ、アフリカやアジアの文化が混然一体となった様子が見られます。

大衆が集まる場所で奏でられる音楽は、アメリンディアンないしアフリカ系音楽がカリブでアレンジされたものが主体です。

イースター時にはタ方行進という行事が行われ、約30人からなる60程のチームが、そろいの民族衣装やTシャツをまとい、小太鼓やトランペットで音頭をとりながら4日間、パラマリボの市内中を練り歩きます。特徴ある習慣の一つに年末年始の花火があります。運担ぎにと、爆竹や打ち上げ花火がいたるところから上り、町はさながら爆弾でも爆発したかのような様相となります。

伝統的な工芸品としては木彫があります。円や曲線をシンメトリーに組み合わせた模様で、壁飾りや椅子、テーブル、お盆などの飾りとして用います。また、丸太をくりぬいて作った一木作りの椅子、ベンチ等はスリナム自慢の家具になっています。

k. スポーツ

最も盛んなスポーツは、サッカー、次いでバスケットボールが人気です。サッカー用の広場は多数あり、人々は狭い広場で少人数で試合を楽しんでいます。また、スリナム出身の国際的に有名なサッ

カー選手がヨーロッパのプロチームで多数活躍しています。

毎年7月、スリナム川を河口に向かって約20キロ泳ぐ遠泳大会が開催されており、12歳以上の老若男女が参加しています。この大会で優勝したこともあるアンソニー・ネスティは、1988年ソウル・オリンピックでの100メートル・バタフライで金メダルを獲得し、一躍有名になりました。同選手は、その後も世界水泳で金メダル、1992年バルセロナ・オリンピックでも銅メダルを獲得し、国民的英雄として称えられ、泳ぐ姿を印刷したスリナム紙幣も発行されました。

その他、規模は小さいものの、トライアスロンや、空手、テコンドー、シラ（インドネシアの空手）等の護身術系のスポーツも盛んであり、柔道場もあります。

2. 歴史

a. 独立前

スリナムに初めてヨーロッパ人が渡来したのは1499年のことで、スペイン人アロンソ・デ・オヘダだと言われています。そのおよそ100年後の1596年には、英国人ウォルター・ラレイ卿が来訪し、1630年にはキャプテン・マーシャルが60人のイギリス人を植民させ、城塞を築いています。その頃から続々と入植が始まり、1632年にはオランダ及びイタリアからユダヤ人が、後に、オランダ人、フランス人が入植したと言われています。1650年に、英国人フランシスコ・ウイロビー卿により、英国領であるとの宣言がなされ、農園の発展と共にアフリカ系奴隷の移入が本格的になりました。

その後、英国とオランダとの間でスリナムの領有権を巡り抗争が起こり、1667年にはオランダがアブラハム・クレイセン司令官を送り込み占領、同年両国はブレダ条約を結び、オランダは北米に持っていたニュー・アムステルダム（現在のニューヨーク）をイギリスに譲る見返りにスリナムを手に入れました。オランダにとってのスリナムの魅力は、サトウキビ、コーヒー、カカオ、綿花等の栽培ができる点にあり、奴隷を入れ、農園開発を推進しました。奴隷の中には過酷な労働や処遇に耐えられず、追っ手が届かない奥地に逃れ自由を得、アフリカでの生活様式に戻っていった人もいました。その子孫は、種族としてはマルーンと呼ばれ、現在その多くは内陸部に住んでいます。

1863年7月3日には、オランダ国王ウィリアム3世がスリナムにおける奴隷制度の廃止を決定しました。この決定の10年前の1853年より中国から、1873年よりインド（当時は英領インド）から、また、1890年よりジャワ（当時はオランダ領東インド）から、契約労働者を導入するようになりました。これら契約労働者の多くは、契約終了後もスリナムに定着し、現在のスリナムの多様な民族構成に繋がりました。

b. 独立とそれ以降

1942年、ロンドンに亡命中のオランダ女王ウィルヘルミは、大戦終了後はオランダの植民地に自治権を付与すると発表しました。1954年12月、スリナムは、外交と防衛はオランダ本国が担うという条件の下、自治が認められました。

1975年11月25日に、スリナム共和国として独立を果たし、植民地総督の地位にあったジョアン・フェリエが初代大統領に、スリナム国民党のヘンク・アロンが初代首相に就任しました。独立にあたりオランダ政府は、約2.5億米ドルあった債権を放棄し、さらに10～15年にわたり計15億米ドルの開発援助を供与すると約束しました。ボーキサイト、金、石油、林産資源等の天然

資源に恵まれ、独立後の4年間はGDP年率12%の急成長を果たしたものの、1979年には援助や輸出で得られた外貨の不当配分や浪費があり、経済成長率は2%に留まり、失業率は20%に上昇、経済に陰りが現れました。

1980年には、デシレ・ボータツセ陸軍曹長率いる16名の下士官グループが、待遇改善要求を目的に軍曹達によるクーデターを起こし、政権を奪いました。暫定政権は、発足するや汚職を理由にアロン首相他政府要人を逮捕拘禁、軍事評議会を結成し全権を掌握、少数による腐敗専制政治を排除し、国民のための民主社会を建設すると宣言しました。同政権は当初は歓迎されましたが、下士官達は政治経験がなく、政権にあった7年間は国民に多大の犠牲と負担を強いる結果となりました。更に、反対派への弾圧や強権政治に対して抗議活動が繰り返され、国内は混乱し、オランダからの援助も停止され、その他主要国との関係も悪化し、国際的に孤立状態になりました。また、世界的なアルミ産業不振に伴うボーキサイト等の輸出減により経済も大打撃を受け、80年代半ばにはブッシュネグロによる反政府ゲリラ活動と政府軍との内戦が繰り広げられました。1986年7月頃には東部内陸部一帯を反政府ゲリラが支配し、一般国民の反政府批判がこれに呼応する形で高まりました。

1987年の総選挙では野党が勝利し、シャンカール政権が誕生しましたが、長続きはせず、1991年の選挙では、ニューフロント（NF）が勝利し、フェネツィアーン大統領率いる内閣が成立、経済改革が成果を挙げ始め、オランダからの援助が再開されました。しかし、インフレを招き、1996年の選挙では、かつての軍事政権指導者ボータツセ元国軍司令官が影響力を持つ政党に敗北しました。このウエイデンボス内閣は、民主的な政権交代の足がかりになりましたが、公共事業の乱発の結果、放漫財政に陥り、それが原因のインフレ、通貨下落等が起こって国民の厳しい批判を浴び、任期を1年残し総辞職、議会を解散しました。

2000年5月には1年繰り上げの選挙の結果、再びニューフロントが勝利し、フェネツィアーンが大統領に返り咲きました。同大統領は、デノミの実施や外資系企業の誘致等、マクロ経済の安定に努め一定の成果を取めたことが国民に評価され、2005年5月の総選挙でも勝利し、連続二期の政権を担当しました。

独立年月日	1975年11月25日		
政 体	大統領を元首とする立憲共和制 大統領：チャンドリカパサード・サントキ		
立 法 府	一院制		
議席数	51議席		
任期	5年		
政党議席数	統一改革党（VHP） 20 国民民主党（NDP） 16 幅広い自由と発展党（ABOP） 8 スリナム国家党（NPS） 3 兄弟愛と統一党（BEP） 2 最高の結託党（PL） 2 議員は10の中選挙区から比例代表制によって選出。		
	<table border="1"> <tr> <td>主要政党</td><td> 統一改革党（VHP）党首：チャンドリカパサード・サントキ 国民民主党（NDP）党首： 幅広い自由と発展党（ABOP）党首：ロニー・ブランズウィック </td></tr> </table>	主要政党	統一改革党（VHP）党首：チャンドリカパサード・サントキ 国民民主党（NDP）党首： 幅広い自由と発展党（ABOP）党首：ロニー・ブランズウィック
主要政党	統一改革党（VHP）党首：チャンドリカパサード・サントキ 国民民主党（NDP）党首： 幅広い自由と発展党（ABOP）党首：ロニー・ブランズウィック		
行 政 府	① 大統領制（国会議員と閣僚ないし各省次官を兼任することは禁じられており、閣僚ないし各省次官に任命された議員は3か月以内に 議員を辞職しなければなりません。） ② 下院優位性		
司法制度	治安判事裁判所（Magistrate's Court） 高等裁判所（High Court） 控訴裁判所（Court of Appeal）		

II. 政治と外交

1. 政体

立憲共和制で、立法、司法、行政が独立した三権分立制を採用しています。国家元首である大統領は国会において選出され、行政府の長、国家評議会（最高政策諮問機関）議長、国軍司令官を務め、閣僚任免権を有します。独立時に制定された憲法は1980年2月に起きたクーデターで停止され、

現在は1987年10月に制定された新憲法に則っています（1992年、2016年に改定）。

2. 政治概況

1980年代の軍による政治支配及び政府軍対反政府ゲリラの間で戦われた内戦については、国民に多大な不安と損失をもたらし、同様の事態を二度と繰り返したくはないという感情が国民の中に高まり、1990年代以降は民主的な政権交代が定着し、比較的安定した政情が続いています。

政党は、ほぼ民族別に結成されていますが、独立前後の時期に比べ異なる民族間の政治姿勢及び勢力関係の緊張は緩和してきています。1991年以降、単独の政党が絶対多数を確保するに至らず、異なる民族グループの複数政党が連立を組み政権を保持する状況になっています。選挙結果によっては選挙直後に連立を鞍替えする政党も現れ得るため、比較的勢力の強い政党も自己主張を抑え連立内の調和を取ろうという意向が働き、多民族国家ながら政治が比較的安定しています。

インフレが恒常化しているスリナムでは、公共部門の労働組合による賃上げ要求のストライキが断続的に起きています。

スリナムの政治に影響を与える外部要因として、旧宗主国で最大の援助国であるオランダの動きを無視することはできません。政府による非人道的な動きや放漫財政等が目に見え、あるいは、国際機関との協力の下、各地で保健医療、社会福祉、教育等々の分野で社会経済開発の一翼を担っています。

また、種々の分野に亘って政府と市民団体（NGO）との相互を補完する協力関係がうまく噛み合い、NGOは国内外の政府、民間ドナーからの資金援助等を得て、あるいは、国際機関との協力の下、各地で保健医療、社会福祉、教育等々の分野で社会経済開発の一翼を担っています。

3. 最近の政情

10年5月に総選挙が行われた結果、野党連合である大連立（MC）が51議席中24議席を獲得、MCはその後A連合（AC）及び人民同盟（VA）との連立に合意し、与党は3つの連合から構成されることになりました。大統領には、MCを構成する国民民主党（NDP）のボータッセ党首が就任しました。

しかしながら、12年に、ボータッセ大統領等が過去に関与したとされる人権侵害に対し刑事責任を問わないとする恩赦法改正案が可決されたため、国内外からボータッセ政権に対する批判が相次ぎ、連立与党内でも分裂が生じました。同年5月、同大統領は、内閣改造を実施しましたが、同月には連立を構成する党の一部議員が離脱しました。これに伴い、以前より同大統領を問題視しているオランダとの関係が一時悪化しました。これらの問題を抱えつつも、ボータッセ政権は好調な経済に支えられ、社会福祉政策やインフラ開発を積極的に実施し、若年層を中心に支持を集め、2015年5月の総選挙では、NDPが国会51議席中26議席を獲得し勝利を収めました。NDPはその後他の政党と同盟関係を結び、7月にはボータッセ大統領が再選され、8月、NDP及びその他4つの政党から成る新内閣が発足しました。

一旦は持ち直したかに見えたボータッセ政権ですが、その後の経済の停滞や、高等裁判所による大統領への訴追再開命令の発出など、厳しい状況に直面し、大統領による人権侵害疑惑が政権に与えた影響は大きく、16年7月、大統領が裁判再開を停止するよう検事総長に命じたことに反対して、DOEが与党連合からの離脱を発表するなど、政治にも混乱を招きました。

20年5月25日の総選挙は、コロナ禍の中で延期も懸念され、また外国選挙監視団が限定された中で行われましたが、野党VHPが20議席で、与党NDP16議席を抑えて勝利しました。7月16日、サントキ大統領及びブランズウィック副大統領が就任し、サントキ政権が発足しました。サントキ政権は、各種改革や欧米諸国との関係改善等に取り組んでいますが、前政権が残した多額の債務等の困難な課題を抱えています。

ボータッセ前大統領に関しては、在任中の19年11月29日、軍事法廷で82年の事件に関与した罪で懲役20年の判決が出され、前大統領は控訴しています。21年4月の公判では、前大統領はこれ以上の陳述は行わない、証人喚問も要請しないと述べましたが、21年8月、原判決通り懲役20年の判決が出されました。その後同大統領は上訴しましたが、2023年12月20日、再び懲役20年の判決が出されました。同大統領は出頭命令に応じず収監されておらず、今後の行方が注目されています。

また、前政権時に発生したトリクト中央銀行総裁等による1億米ドルの横領の裁判が行われており、ウーフダ前財務大臣も起訴され、2021年12月に同前大臣の12年の有罪判決が確定しましたが、同前大臣側はこれを不服とし、米州人権裁判所に訴える方針を示しています。また、20年11月には在任中の不正行為によりアディーン前副大統領も逮捕されました。

4. 立法

立法権は、51名の議員により構成され一院制の国会にあります。国会は国権の最高機関と位置づけられ、憲法改正、大統領及び副大統領選出、選挙基本法改正等の重要事項の決定に際しては、議員定数の3分の2以上の賛成を必要とします。

国会議員は10の行政地区と同じ区域の、10の中選挙区において普通選挙により選出されます。

選挙権は18歳以上の国民にあり、被選挙権は選挙前の2年以上に渡って立候補しようとする選挙区に居住している、いずれかの政党に属する21才以上の国民にあります。

5. 政党

国会議員に立候補するには政党に所属していることが要件になります。いずれの政党も、それぞれの民族が支持母体になっており、選挙民の過半数を占める民族は存在しないために過半数を制する政党は存在せず、政党連合を上手に組み過半数を確保した政党連合が政権を取ることになります。

6. 行政

a. 国家行政

国家行政は大統領に属すると憲法に規定されており（第99条）、また、副大統領が主催する閣議が最高の行政執行機関であることも憲法に明記（第119条）されています。国会議員と閣僚ないし各省次官を兼任することは禁じられており、閣僚ないし各省次官に任命された議員は3か月以内に議員を辞職しなければなりません。議員に欠員が出た場合には、直近の選挙結果を元に繰り上げ当選とする制度を採用しています。

（付録「スリナム閣僚メンバー」参照）

b. 地方行政

全国は、10の行政地区に分けられ、地区はさらに最小行政単位である地方行政管轄体に分けられています。各レベルには評議会が設けられており、地方行政管轄体評議会委員は国民議会議員選挙と同時に行われる選挙により選出されます。地区評議会は当該地区内における最高の政治・行政意志決定機関であり、委員は、当該地区内の地方行政管轄体評議会の委員選挙で選出された委員が属する政党の獲得議席数に従い比例配分し選出されます。地区区長は大統領が任命します。

7. 司法

スリナムでは、上級裁判所及び下級裁判所が司法・行政裁判を司り、別途、条約、法律の合憲性を審査する憲法裁判所が置かれています。憲法裁判所は、正副裁判長、裁判官3名、副裁判官3名で構成されます。

8. 外交

a. 概況

スリナムの外交にとって最も重要な相手国は旧宗主国オランダ、次いで米州機構を主導し、主要な貿易相手国である米国、国境を接するブラジル、ガイアナ、フランス（仏領ギアナ）が挙げられ、主要援助国の中国、日本も重要な相手国になっています。

オランダからは、開発協力基金（Treaty Fund）を通じ、保健、教育、住宅、農業、統治、環境、の6分野で支援を受けていましたが、オランダの法廷で有罪判決を受けているボータツセ政権発足後は、同国との関係は冷え込んでいました。サントキ政権になってからは急速に関係が改善されており、政権誕生直後の20年8月にラムディン外務大臣はオランダを訪問し、オランダは350万ユーロの支援を約束し、両国間の大使相互派遣も合意されました。11月のスリナム独立記念式典にはブロック・オランダ外務大臣（当時）が出席し、21年6月にはラムディン外務大臣がオランダを訪問、同年9月にはサントキ大統領がオランダ訪問を行い、アレキサンダー国王拝謁、ルッテ首相との会談等を行い、保健、農業及び司法分野等での協力合意が行われました。21年4月にはバイレフェルト・オランダ国防大臣がスリナムを訪問し、国防分野での協力も進展しています。なお、23年7月、アレキサンダー国王は、オランダの過去の奴隷制について謝罪をしています。

また、米国との関係についても、20年9月にポンペオ国務長官（当時）が国務長官として初めてスリナムを訪問し、米国はスリナム経済を支援すると約束しました。更に、同じく政権交代が起きた隣国ガイアナとの間でも、両国大統領や閣僚の相互訪問が行われ、両国間国境のコレンティーン川橋梁建設を含め、両国間の協力強化が進展しています。

近年は外交関係の多角化に踏み出しており、カリコムを中心とした地域外交をより積極的に推進、対EU関係等においてはカリコムの場で他の加盟国と政策協調を行っているほか、南米大陸、中東諸国及びインド、中国、インドネシア等のアジア諸国や、モロッコ等のアフリカ諸国との関係強化も図っています。

カリブ諸国連合（ACS）、南米諸国連合（UNASUR）及びイスラム協力機構（OIC）にも加盟しており、2022年2月には、ラテンアメリカの進展と発展のためのフォーラム（PROSUR）に正式加盟しました。

b. 国境問題

スリナムは国境を接するガイアナ及び仏領ギアナとの間で国境問題があります。河川流が国境線になっていますが、植民地時代には内陸部の実態が把握されておらず、いずれの支流が国境になるのか不明確なままにガイアナとスリナムが独立して今日に至り、お互いに自国に有利な支流を国境線として主張していることに起因しています。特にガイアナとは、海上の国境線に関し、河川とどういう角度をもって国境線を決めるかで問題になっています。２０００年にガイアナ政府は、カナダ資本の会社に海洋油田探査の許可を与え探査を始めましたが、スリナム政府は自国の領海を侵されたと抗議、艦船を探査海域に派遣し、緊張が高まったという出来事も起きています（その後、探査活動は中止に追い込まれた）。０２年１月にはガイアナのジャグデオ大統領がスリナムを訪問し、国境問題について油田の共同開発の可能性を含めた包括的な二国間協力枠組みが合意され、両国による国境委員会が復活、協議が再開されました。０４年３月にはガイアナ政府が国境問題について、国連海洋法条約に照らし訴訟を起こし、０７年９月に国際仲裁裁判所が二国間の海洋境界を画定しました。

２１年８月、サントキ大統領一行がガイアナを訪問し、アリ大統領等との一連の会談の下、共同声明を発出し、２０年の首脳会談野後の戦略的対話、協力プラットフォームの進捗を検討し、幅広い分野での両国間協力案件等につき協議しました。また、仏領ギアナで行われた同国及びガイアナとの防衛戦略対話では、３者間で共通安全保障基本計画への署名も行われ、サントキ政権はこれまでの係争地問題よりも３か国間の連携を重視する現実路線を進めています。

c. ブラジルとの関係

南の隣国ブラジルとの間には、ブラジル人金採掘者による金採掘活動の問題を抱えています。金採取のために水銀を用い、その水銀を川に垂れ流し汚染を引き起こしていることに加え、不法入国、金不法採掘、金不法国外持ち出し、金不法取引といった事態にも結び付いているようです。

ボータッセ政権は、金鉱産業改革に乗り出し、採掘者に対し事前に政府の許可を取得することを義務づけました。

またサントキ政権下では、２２年１月、ボルソナーロ・ブラジル大統領がスリナムを訪問し、両国首脳会談では、政権協議枠組みに基づく定期協議の再開、貿易、投資、農業、石油ガス、能力構築、教育、行政、ＩＴ、司法等の分野で協力を行っていくことで合意が行われました。また、当地を訪れたガイアナ大統領と共に、３か国首脳会談が開催されました。

III. 経済

1. 概況

スリナムの主産業は鉱業及び石油関連産業で、その他、米、バナナ、魚介類、木材等の一次製品の生産国でもあります。一時、国連中南米カリブ地域経済委員会の報告は、スリナムをカリブ諸国の中で、数少ない安定した経済成長を遂げた国と評価しましたが、その後、主産業であったアルミナ精製所の操業停止や原油安は、多額の財政赤字をもたらし、前政権が残した多額の対外債務により厳しい経済状況にあります。サントキ政権は、債権者団との債務繰り延べ交渉を続ける傍ら、ＩＭＦへ支援を要請し、協議の結果、２０２１年４月にＩＭＦとの間でスタッフレベル合意に達し、同年６月には経済復興計画と２１年度予算が国会で承認されました。ＩＭＦ理事会の承認には時間を要しましたが、同年１２月、拡大信用供与ファシリティ(Extended Fund Facility)として３年間で６．９億米ドルの

支援を受けることが決定しました。

2. 近年の経済状況

GDP総額は、2008年以降ほぼ増加傾向にありましたが、2015年には前年の52億米ドルから48億米ドルと減少し、翌2016年には更に失速し、IMFからの支援を受けました。その後も状況は厳しく、2020年のコロナ禍で更に打撃を受け、GDP成長率は前年比▲15.9%、GDP総額は15年の半分近くの29億米ドルと大きく減少しました。2020年10月には償還期限の到来した債務の履行ができず、債権団との繰り延べ交渉、IMFとの支援交渉を余儀なくされ、IMFとは2021年4月にスタッフレベル合意に達しましたが、12月の最終的な理事会の承認まで時間を要しました。IMFによる6.9億米ドルの融資は、スリナム政府が提出した経済復興計画の実施状況を確認しつつ、数度に分けて支払われ、2023年9月に3度目の支払いがあり、合計1.56億米ドルを引き出しています。またIMFとの合意により、世界銀行や米州開発銀行（IDB）も支援を約束しています。IMFは、23年の成長率を2.1%、24年3.0%と予測しています。

不安定な経済はインフレ率の変化にも表れており、経済危機を迎えた2016年のインフレ率は、一時、政府が為替の自由相場制を導入したことで急激なスリナムドル安、それに伴う輸入価格高騰により、年55%まで上昇しました。コロナ禍の2020年のインフレ率は年35%でしたが、為替レートの切り下げによる輸入価格の上昇により、2021年は年59%、2022年は52%と再び高いインフレ率となりました。

隣国ガイアナに続きスリナムでも海洋油田が確認され、石油生産が、2026年にも開始されると言われていましたが、最終投資判断の遅れから、現在は2028年の生産開始が予定されています。

表1 GDP 総額(単位:億米ドル)

年	2017	2018	2019	2020	2021*	2022*
GDP 総額	35.92	39.96	39.84	28.84	29.85	35.10

(*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, October 2023)

表2 GDP 成長率(単位:%)

年	2017	2018	2019	2020	2021*	2022*
成長率	1.57	4.95	1.10	-15.90	-2.74	1.03

(*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, October 2023)

表3 インフレ率(消費者物価指数:年間平均)(単位:%)

年	2017	2018	2019	2020	2021*	2022*
インフレ率	22.02	6.94	4.39	34.89	59.12	52.45

(*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, October 2023)

表 4 失業率の推移 (単位：%)

年	2017	2018	2019	2020	2021*	2022*
失業率	7.0	9.0	8.8	11.1	11.2	10.9

(*推定値、出所:IMF World Economic Outlook Database, October 2023)

3. 産業

a. 鉱業

従来、金及びボーキサイト産業が中心で、ボーキサイトはアルミナとして海外に輸出されていましたが、精錬所の閉鎖により 2016 年の少量の輸出が最後となりました。スリナム中央銀行によると、2022 年の金の輸出額は、全体額の 76% を占めています。金採掘は、スリナム経済にとって極めて重要な産業ですが、採掘過程において化学製品を使用することから環境への影響が懸念されています。

b. 石油産業

石油産業は、1980 年代より陸上で小規模生産が行われてきましたが、沖合域での石油産業の歴史は浅く、2000 年代より開発が進められています。2007 年には INPEX がスリナム海域で試掘井掘削などの探鉱作業を実施しましたが、成功には至りませんでした。2016 年、石油公社は、これまでの精油所の倍の処理能力となる日産 1 万 5 千バレルの新規精油所を稼働させました。

2020 年 1 月、米アパ社及び仏トタルエナジーズ社がマカ中央 1 区で海洋油田を発見したと発表し、28 年に本格生産が開始することが期待されています。21 年 10 月、石油公社は、シェブロン社と生産物分与契約を結び、子会社の Paradise 石油を通じて、同社初のオフショアとなる第 5 鉱区で試掘を開始しています。カタルエナジー社、ペトロナス社、エクソンモービル社、シェル社等も海洋鉱区で調査を進めています。米国地質調査所は、2000 年にスリナム=ガイアナ海盆には 150 億バレルの石油と 40 兆立方フィートの天然ガスが埋蔵されていると試算しており、更なる油田の発見が期待されます。

c. 農水産業

植民地時代には、サトウキビ、コーヒー、柑橘等の大規模栽培が行われ、ショ糖の製造が行われていました。現在は、コメ、サトウキビ、バナナ、オレンジ、ココナツ等が栽培されています。

近海ではエビ漁等が行われており、漁獲物は生鮮で市場に出回る他、魚の薫製、干しエビ製造が行われています。外貨導入で設立されたエビ加工・輸出企業は外資撤退後も外国人の指導を受け稼働を続け、日本や欧州へ冷凍エビを輸出しています。カリブ地域漁業機構 (CRFM) の発表によれば、2020 年のスリナムの漁獲量は 3 万 7 千トンで前年の 3 万 1 千トンから微増し、カリブ諸国では最も多い漁獲量となりました。2022 年はバナナ、米、魚介類、エビの合計輸出額は、全体の 2.4% を占める、5,840 万米ドルを計上しています。

4. 金融・財政

通貨はスリナムドル（SRD）を使用しており、為替レートは政府が決定する管理相場制を採用していましたが、中央銀行は2021年6月、自由相場制を採用すると発表しました。2020年前半の公定レートは7.52SRD、並行レートとの乖離は明らかで、サントキ政権は就任直後の9月に14.20SRDへ大幅な切り下げを実施し、その後、2021年6月には自由相場制を採用すると発表しました。2023年12月末のレートは、27.89SRDです。外貨準備高は、コロナ禍により2020年は5.8億米ドルにまで減少しましたが、2021年には9.9億米ドルまで回復し、輸入財・サービス6.3ヶ月分相当を確保しています。

財政は、歳出の増加に歳入が追い付かず、2019年には▲21.9%まで悪化しましたが、インフレと新たな徴税導入により歳入が増加し2020年は▲9.7%、2021年は1.8%の黒字となりました。公的債務の増加は深刻で、IMFは、2014年まで対GDP比30%以下だった債務額は、2016年には約75%、2019年には85%、2020年には148%に達したと予測しています。2016年5月、IMFは政府の経済改革プログラム支援を目的に総額4億7,800万米ドルのスタンバイ融資を実施、他の国際金融機関も融資約束をしましたが、ボータッセ政権はIMFから最初の引き出し後、交渉を停止しました。政府は、2019年11月、借入れ債務上限をGDP比60%から95%まで引き上げる国家債務法改正を成立させましたが、2020年にはその上限を大きく超える結果となり、支払い期限の到来した利子、元本の一部を返済することができず、格付け機関もスリナムの格付けを引き下げました。政府は債権団の債務繰り延べ交渉と並行して、経済復興計画を提示しIMFに支援を要請した結果、2021年4月末に、IMFとのスタッフレベル合意が実現し、12月に理事会の承認を得ました。

表5. 債務残高対GDP比（%）

年	2017	2018	2019	2020	2021*	2022*
債務割合	71.5	66.1	85.2	147.7	125.3	119.6

（*推定値、出所：IMF World Economic Outlook Database, October 2023）

5. 貿易

スリナムの主要輸出品は、金で、その他石油、木材、魚介類を輸出しています。中央銀行によれば、2007年まで輸出額の半分以上をアルミナが占めていましたが、2015年の精錬工場の閉鎖により、2016年の少量の輸出を最後に輸出はされていません。2009年後半からは金の輸出額が増加傾向にあり、輸出額の太宗を占めています。2020年の主な輸出品は、金（18.79億米ドル）、石油（1.96億米ドル）、木材（0.89億ドル）、たばこ（0.39億米ドル）、コメ（0.25億米ドル）、アルコール飲料（0.19億米ドル）です。近年の輸出入総額、主要貿易相手は以下の表6、表7のとおりです。

表6 輸出入総額 (単位：億米ドル)

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
輸出総額	20.26	21.23	20.90	21.23	22.14	27.64
輸入総額	12.09	15.27	17.11	15.33	13.81	18.05

(出所：スリナム統計局)

表7 主要貿易相手国(地域)別貿易実績 (2022年)

	輸出		輸入	
	国名	構成比(%)	国名	構成比(%)
1	スイス	44.6	米国	24.4
2	アラブ首長国連邦	23.2	EU	20.6
3	EU	7.8	トリニダード・トバゴ	13.9
4	トリニダード・トバゴ	4.9	中国	9.6
5	ガイアナ	4.4	アンティグア・バーブーダ	3.4

(出所：WTO Trade Profile)

6. 経済統合

カリコムに加盟し、カリコム単一市場・経済(CSME)を推進しており、2006年にバハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間(12か国)で取り組みが開始されました。域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合は無税で、加盟国間の対外共通関税も実施しており、域内の労働者の移動も決められた職種で合意しています。また、カリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名している他、対カナダ貿易開発協定を締結しています。

カリコム及びカリブ諸国連合(ACS)を通じて、南米南部共同市場(MERCOSUR)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、2011年にラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASからアメリカ及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治・経済・社会・文化の側面の統合を長期目標に掲げています。2022年2月には、ラテンアメリカの進歩と発展のためのフォーラム(PROSUR)に加盟しました。

7. 対日貿易

対日貿易は、輸入額が大きく上回っています。主な輸入品は自動車関連で、輸出面ではエビ類を中心に魚介類がその多くを占めています。その他の主な輸出入品は表8のとおりです。

表8 対日貿易（2002年）（単位：千円）

輸入総額	8,902,515	輸出総額	657,350
主な輸入品	自動車 6,887,762 ゴムタイヤ及びチューブ 896,332 原動機 245,641 自動車部品 73,650	主な輸出品	魚介類 617,371 木材 31,650 生きた動物 6,998
対日貿易収支	-8,245,165		

（出所：財務省貿易統計；国別概況品別表）

IV. 日本との関係

1. 政治・外交

日本は、1975年11月25日のスリナム独立と同時に承認し、同年12月6日に外交関係を樹立しました。2006年1月から、在トリニダード・トバゴ大使館がスリナムを兼轄しています。1977年から2005年まで駐在官事務所が設置されていました。スリナムは駐中国大使館が日本を兼轄しています。また、スリナムには日本の名誉領事を置いており、17年8月からパダラート・スリナム商工会議所会頭が名誉領事を務めています。

日本とスリナムとの間には査証免除取極があり、観光等の目的による3か月以内の滞在であれば、査証は相互に免除されることになっています。2023年12月、当館からの照会に対し、スリナム外務省から「日本の旅券所持者は査証免除である。観光又は親族訪問のための渡航は入国料の支払いが必要。商用目的の渡航は査証が必要である。」との回答を受けました。同月、当館から同省に対し、商用目的の場合の査証の必要性について照会しておりますが、2024年2月現在、回答を得られておりません。

スリナムは2004年に国際捕鯨委員会（IWC）に加盟し、現在は海洋生物資源の持続可能な利用の立場を支持しています。

2. 開発協力

日本のスリナムに対する開発協力は、脆弱性の克服を基本方針として、防災・環境分野等を中心に行われています。無償資金協力では1975年度以降、水産無償資金協力5件（計24.59億円）を実施したほか、経済社会開発計画により機材供与を2件、2001年度からは草の根・人間の安全保障無償資金協力を23件実施しました。また、スリナムを含むカリブ4か国の医療体制強化のため、国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）を通じた4.99億円の無償資金協力を決定し、20

22年4月には調達機材の引渡式が実施されました。技術協力では、1984年度以降、我が国において126人の研修員を受け入れており、1997年度以降、水産の専門家8人（短期専門家を含む）を派遣しました（2020年度までの累計）。

（参考：無償資金協力の実績）

1975年度	漁業訓練船及び漁業訓練機材	（2.90億円）
1990年度	コモウェイナ地区小規模漁業近代化計画（1/2）	（5.56億円）
1991年度	コモウェイナ地区小規模漁業近代化計画（2/2）	（5.02億円）
1995年度	小規模漁業機材整備計画	（2.94億円）
1996年度	パラマリボ大学病院医療機材整備計画	（9.93億円）
1999年度	コモウェイナ及びサラマッカ地区配電網拡張計画	（10.56億円）
2003年度	母子保健基礎医療機材整備計画	（3.27億円）
2006年度	パラマリボ小規模漁業センター整備計画	（8.17億円）
2017年度	経済社会開発計画（防災機材）	（2.00億円）
2018年度	経済社会開発計画（水産機材）	（4.00億円）
2020年度	医療機材供与を通じた保健システム強化計画（UNOPS 連携）	（4.99億円）※カリブ4か国の合計金額
2022年度	経済社会開発計画（排水ポンプ）	（4.00億円）

3. 要人往来

a. 往訪

年	月	要人
1989年	2月	山下徳夫 衆議院議員
2017年	7月	藺浦健太郎 外務副大臣

b. 来訪

年	月	要人
1981年		ネーデ 国防大臣
1985年		ユーデンハウト 首相
1989年		ムングラ 大蔵大臣
1994年		デファレス 運輸・通信・観光大臣
2000年	11月	レーフェンス 外相 （第一回日・カリコム閣僚レベル会議）
2001年	9月	チョン・チン・ユー 貿易産業大臣（高級実務者招聘）
2003年	2月	ガンガラム・パンディ 農業・畜産・水産大臣 （海洋生物資源の持続的利用に関するシンポジウム）
2003年	8月	フランコ・ルディ・デーモン 天然資源大臣

		(第三回世界水フォーラム閣僚級国際会議)
2008年	2月	ルーズランド 天然資源大臣 (石油開発情報センター主催セミナー)
2014年	3月	ホク 天然資源大臣
2018年	9月	ステファン・サング 貿易・産業・観光大臣 (観光交流拡大のためのカリブ共同体招聘プログラム)
2019年	10月	チェン大統領特使(在中国スリナム大使)(即位の礼出席)

4. 文化・人的交流

1989年、パリマ・スイミングセンターに対する体育機材供与(4,200万円)に関する文化無償を実施しています。

2003年及び2004年、スリナム文化センター及び Advanced Teacher Training Institute に対して、国際交流基金事業の図書寄贈を実施しています。

また、過去に実施された主な文化事業は次のとおりです。

2002年 日本週間(茶道、生け花、折り紙、日本人形展示、映画上映等)

折り紙教室

2003年 琴・尺八演奏会

折り紙教室

バナナ・ペーパー絵画展

人物交流事業では、平成15年度及び同18年度外交官日本語研修で計2人、平成25年度～令和4年度カリコム若手外交官招聘プログラムで計7人が来日、令和2年度は1名がオンライン参加をしています。また、2022年度文部科学省国費外国人留学生(研究留学生)として1人が来日しています。

また、2020年の東京オリンピック(21年に延期)のスリナムのホストタウンとして、北海道寿都郡黒松内町が決まり、2021年1月には、スリナムオリンピック委員会と鎌田町長との間でオンライン調印式が実施された他、子供たちによる動画メッセージの送付やスリナム国家の合唱、和太鼓の披露など様々な交流が行われました。

5. 在留邦人

2024年1月現在の在留邦人は6人です。

V. 旅行者のために

1. 時差

スリナムは、グリニッジ標準時間とマイナス3時間の時差があります。従って、日本との時差はマイナス12時間です。

2. 通貨・両替

通貨はスリナムドル（SRD）。

両替は、銀行及び両替商（Cambio）にて現地通貨を購入します。両替商の営業時間は、営業所によってまちまちです。

3. 国際電話

国際電話は、最初に00、次に国番号、先方の電話番号の順でダイヤルします（日本の場合、市外局番先頭の0を取ります）。

（例1）東京へ電話する場合

00-81（日本の国番号）- 0を除く相手先電話番号

（例2）トリニダードの日本大使館へ電話する場合

00-1-868（トリニダードの国番号）- 相手先電話番号

スリナムの国番号は597です。

4. 2024年の祝祭日

1月 1日	NEW YEAR' S DAY	元旦
2月 10日	Chinese New Year	春節（中国）
3月 25日	PHAGWAH(HOLI)	ホーリー祭
3月 29日	GOOD FRIDAY	キリスト受難の日
3月 31日	EASTER MONDAY	イースター
4月 10日	EID-UL-FITR	イード・アル・ファトゥール
5月 5日	LABOUR DAY	労働者の日
6月 19日	EID-UL-ADHA	イード・アル・アドハー
7月 1日	KETI-KOTI/EMANCIPATION DAY	奴隷解放記念日
8月 9日	INDIGENOUS PEOPLE' S DAY	先住民の日
10月 10日	MAROONS DAY	マルーンズ・デー
11月 1日	DIVALI	ディバリ
11月 25日	REPUBLIC DAY	立国記念日
12月 25日	CHRISTMAS DAY	クリスマス
12月 26日	BOXING DAY	ボクシングデー

5. 交通手段

スリナムでの運転は、右ハンドル、左車線通行です。

スリナムには鉄道が走っていないため、公共交通機関はバスかタクシーになります。しかし、バス、タクシー共に、地理に不慣れな外国人には不便に感じられるかもしれません。

a. タクシー

巡回タクシーは殆ど見つからない上、運転手が英語を理解しないことが多いため、外国人旅行者に

は利用しづらいかもしれません。ホテル、または、特定のたまり場に待機している車と交渉したり、営業所にて個人タクシーに連絡し利用するのが基本です。車体にはメーターが設置されていないため、乗車する前に運転手が持っている料金表、あるいは、口頭で料金を確認します。

b. バス

バスは、庶民の唯一の足となっています。市内各所に行き先別のバスターミナルが点在しますが、行き先が分かりづらく、発着の時刻表が存在しないため、不便に感じられるかもしれません。バスがほぼ満席になるまで出発しなかったり、運転手の判断により運行ルートが変更されることもあるので注意が必要です。

6. 治安

スリナムでは、人口比の犯罪件数は多く、銃器を使用した犯罪や、薬物に関連した犯罪が多く発生しています。内陸部への渡航は勧められませんが、必要がある場合には信頼できる現地のガイドを雇う等、安全対策を十分に行ってください。

強盗や窃盗（ひったくりや車上狙い等）も多数発生しており、外出に際しては細心の注意が要求されます。犯行は複数人のグループで行われることが多いため、単独での行動や夜間の外出は避けてください。

2016年には2人のアフリカ系男性からタクシーをシェアしようと持ちかけられた日本人旅行者が、乗車した車でひとけの無い場所に連れて行かれ、パスポートや金品などを強奪されるという事件が発生しました、また2023年には日本人女性が船にて仏領ギアナからスリナムに向かう途中で海に落とされ所持金等を奪われる事件も発生しています。船やタクシーなどに乗車する際には、信頼できるホテルやレストランなどを通じて手配してもらうなどの対策が必要です。

また、政府等に対する抗議活動において暴動に発展する恐れもあることから、現地情報の入手に努め、巻き込まれないように注意が必要です。

VI. 主要電話番号

警察	115
消防	110
救急	113
Johan Adolf Pengel International Airport	401-348
日本国大使館（トリニダード）	(1-868) 628-5991～3

スリナム共和国閣僚名簿

(2020年7月16日組閣)

2024年2月現在

統一改革党 (VHP)

幅広い自由と発展党 (ABOP)

スリナム国民党 (NPS)

最高の信託党 (PL)

(1)	大統領 President	チャンドリカパサード・ <u>サントキ</u> His Excellency Chandrikapersad SANTOKHI	VHP
(2)	副大統領 Vice President	ロニー・ <u>ブルンズウィック</u> His Excellency Ronnie BRUNSWIJK	ABOP
(3)	外務・国際商業・国際協力 大臣 (兼第一副大統領代 行) Minister of Foreign Affairs, International Business and International Cooperation (First Replacement For the Vice President)	アルバート・ <u>ラムディン</u> His Excellency Albert R. RAMDIN	VHP
(4)	天然資源大臣 Minister of Natural Resources	デービッド・ <u>アビアモフォ</u> His Excellency David ABIAMOF0	ABOP
(5)	運輸・通信・観光大臣 Minister of Transport, Communication and Tourism	アルバート・ <u>ユビタナ</u> His Excellency Albert E. JUBITHANA	ABOP
(6)	社会問題・公共住宅大臣 Minister of Social Affairs and Public Housing	ウライキット・ <u>ラムサラン</u> His Excellency Uraiqit H. RAMSARAN	PL
(7)	国防大臣 Minister of Defense	クリシュナコマリー・ <u>マトウーラ</u> Her Excellency	VHP / 女性

		Krishnakoemarie MATHOERA	
(8)	教育・科学・文化大臣 Minister of Education, Science and Culture	ヘンリー・オリ His Excellency Henry R. ORI	VHP
(9)	公共事業大臣 Minister of Public Works	リアド・ヌーモハメド His Excellency Riad J. NURMOHAMED	VHP
(1 0)	内務大臣 Minister of Home Affairs	ブロント・ソモハルジョ His Excellency Bronto S.G. SOMOHARDJO	PL
(1 1)	保健大臣 Minister of Health	アマール・ラマディン His Excellency Amar N. RAMADHIN	VHP
(1 2)	財務・計画大臣 Minister of Finance and Planning	ケルメチェンド・ラゴバーシ ング His Excellency Kermechend Raghoebarsing	
(1 3)	地域開発・スポーツ大臣 Minister of Regional Development and Sport	グラシア・エマニュエル Her Excellency Gracia V. EMANUEL	ABOP / 女性
(1 4)	農業・畜産・漁業大臣 Minister of Agriculture, Animal Husbandry and Fisheries	パーマナンド・セウディエン His Excellency Parmanand SEWDIEN	VHP
(1 5)	司法・警察大臣 Minister of Justice and Police	ケネス・アモクシー His Excellency Kenneth J. AMOKSIE	ABOP
(1 6)	労働・雇用機会・青少年大 臣 Minister of Labour, Employment Opportunity and Youth Affairs	スティーブン・マック・アンド リュウ His Excellency Steven H. <u>MAC</u> <u>ANDREW</u>	
(1 7)	土地・森林管理大臣 Minister of Land and Forest Management	ディノーサ・フォルスウィック Her Excellency Dinotha VORSWIJK	ABOP / 女性
(1 8)	区画計画・環境大臣 Minister of Spatial	マルシアーノ・ダサイ His Excellency Marciano	VHP

	Planning & Environment	DASAI	
(1 9)	経済・起業・技術革新大臣 Minister of Economic Affairs, Entrepreneurship and Innovation	リシュマ・ <u>クルディプシン</u> Her Excellency Rishma N. KULDIPSINGH	VHP / 女性

スリナム地図



※出典：Worldatlas.com

当館管轄国と日本の貿易関係（2022年全期）

	アンティグア・ バーブーダ	ドミニカ国	グレナダ	セントクリストファー・ ネービス	セントルシア	セントビンセント	トリニダード・ トバゴ	ガイアナ	スリナム
対日輸入 総額	1,450,544 (619,136)	554,396 (506,177)	1,128,546 (683,325)	861,805 (387,687)	1,654,054 (1,164,733)	677,253 (513,088)	14,728,545 (8,546,026)	12,696,486 (9,148,809)	8,902,515 (6,427,637)
主要 輸入品目	自動車 1,329,534 映像機器 14,238 ポンプ及び遠心 分離機 9,410	自動車 390226 建造物及び同 建設材 41,610 原動機 15,826	自動車 1,044,941 原動機 47,122	自動車 464,709 船舶類 360,218 ポンプ及び遠心 分離機 3,171	自動車 1,510,903 自動車部品 23,851 構造物及び同 建設材 9,011	自動車 568,298 原動機 20,768 ポンプ及び遠心 分離機 11,634	自動車 11,305,105 原動機 809,168 自動車部品 723,702 ゴム製品 211,717	自動車 10,672,717 原動機 476619 自動車部品 222,124	自動車 6,887,762 ゴムタイヤ及び チューブ 896,332 原動機 245,641 自動車部品 73,650
対日 輸出総額	32,394 (1,674)	57,976 (31,894)	0 (1,758)	480 (2,085)	1,383 (6,734)	428,507 (73,041)	25,436,848 (11,275,924)	546,990 (860,026)	657,350 (399,797)
主要 輸出品目	肉類及び同調 製品 32,394	衣類及び附属品 28,169 精密機器類 11,992		電気機器 480	アルコール飲料 1,383	魚介類 426,197 電気回路等の 機器 2,310	有機化合物 16,539,506 液化天然ガス 8,653,021 非鉄卑金属くず 132,604 アルコール飲料 51,234	非鉄金属鉱 487,814 生きた動物 28,130 アルコール飲料 23,964	魚介類 617,371 木材 31,650 生きた動物 6,998
対日 貿易収支	-1,418,150 (-617,462)	-496,420 (-321,941)	-1,128,546 (-681,567)	-861,325 (-385,602)	-1,652,671 (-1,157,999)	-248,746 (-440,047)	-10,708,303 (-2,729,898)	-12,149,496 (-8,288,783)	-8,245,165 (-6,027,840)

<単位>1,000 円 / <出典>財務省貿易統計: 国別総額表, 国別概況品別表()内 2021年総額